

とした勉學の結果であるといふことである、單に歴史家といはず、地理學者もこの書を読んで教へられる所が多いことゝ信じ敢て江湖にこの書をすゝめる。(藤田)

雜報

○英國人の見た日本

マンチエスター紡績聯合會幹事

ビース氏は曰く、

日本の紡績業は本世紀初より發展し大戰後に於て現在の段階に達したが、今日では綿製品の最大輸出國で、棉花の消費は世界第二位である、日本の綿製品は他國品より二割五分乃至五割方安い、これは日本國家の補助金の爲でなくて、主として圓價下落の爲であつて、この結果勞銀五割生産費一割五分乃至一割八分低くゝなつた、しかも圓貨低落に不拘、一般物價は殆ど高くならない。商船所有權は世界第三位で、戦債はない。

勞銀は最近可成騰貴し今後もあるといつても英國や瑞西等の水準には達しない、日本では男子は骨の折れる農業勞作に従事し、工業勞働は女子幼年工に委せらるゝ結果其賃銀は割安である、此等勞働者の多數は軍隊式の寄宿生活をするが其設備は良好である、勞働組合に加入せるものは少く、罷業は稀である、重役の俸給は英國、瑞西に比して約五分一で企業組織は整頓し原料の買入、製品の價格は統一されてゐる、

概して日本人は用意よく融通性にのみ沈着にして且つ誠實が最良の商業道德であることを知つてゐる、猶關係各人は國家に奉仕するを以て終始し全國民は一丸となり一國家トラストとして活躍して居る。

日本の工場の成功せる主要原因の一は其技術である、日本紡績は英國よりも一割方能力が高く國産機械を使用するといふ長所がある、然も其原價低廉にして豊田式の如きは日本では僅に二十四磅なるに英國では六十四磅を支拂つてゐる程である、一般に織機は日本の方が歐洲各國よりも二割五分は低廉である、外國製機械では瑞西製品が正確且能率よいものとして用ひられ晝夜二部更迭制を守つてゐる、これは日英會商の際本制度の廢止を要求したけれども日本は承知しなかつた

英國は日本品に對し割當制度及輸入制限をやつたが右は時期尙早である、濠洲の如きは日本との通商に満足し、印度の農民は依然安價な日本品を歓迎してゐる、日本は無數の扉を有する室内に居るやうなもので一方を閉すと他方へ出るの目下南米へ注目してゐる、元來割當制は暫行的のものであり高關稅も亦健全な制度でない、英國が日本品に高い稅を課した結果、日本は支那と妥協したではないか、日支間の政治的紛争は既に清算されてしまつた。

歐洲人は日本人が其收入に應じた生活をなして居る點を學ばねばならぬ。

以上は氏の購演要旨であり、主としてパーンビー脚滿洲視

察報告書に非るたものであるが、かやうに云はれるとしりこそばゆい感がしないではないけれども、我等はどこまで分を守つて一生懸命に働かねばならない時代に生れ合はしたことを幸福と感じなくてはならぬであらう。

○日濠間貿易

一九三三年度日本品の濠洲輸入額は英貨三百五十三萬六千五百八十一磅にして、前年度に比し百十四萬磅の激増である、之を一九三〇年の約四百二十萬磅、一九二九年の四百七十萬磅に比すれば遙に及ばないけれども、輸入總額に對する割合は増加の勢である。

濠洲品の日本向輸出は千四百四十七萬磅であつて前年度より十八萬磅の減少を見たけれども一九三〇年度の六百五十五萬磅に比べて其増加は著しい。

最近五年間に日本向濠洲品の輸出は八分乃至一割で其比率は増大の傾を示めしたが、これ主として本邦毛織業界の羊毛に對する旺盛なる需要に基くもので、一九三三年には羊毛輸入量は空前の二百萬セントルに達した、其輸出価格は數量に比して増加率が小さいが、それは市價の下落による結果である従つて英本國について第二位の大輸入國となつた。

本邦品の輸入は金額では、一九二九年及其次年度に及ばないけれども、全體に對する比率は最近五ヶ年に三分三厘より六分二厘に増加した、右は圓爲替下落と本邦工業の發展による格安工業品の當市場への進出に基因するもので就中、綿織物、絹織物、製造纖維等の紡織品並に陶磁器の輸入激増に負

ふ所大なるものがある。

最近五年間日濠輸出人比較(單位磅)

年次	日本向輸出	全輸出 對比率	日本品輸入額	全輸入 對比率
一九二九	二、五八、九六六	七、五%	四、七〇、七一九	三、八%
一九三〇	六、五五、〇〇三	五、四	四、一八、六四一	三、三
一九三一	九、五〇、四九九	九、三	二、七九、五八一	四、〇
一九三二	二、六五、〇三三	一〇、九	二、四三、六九九	五、四
一九三三	二、四六、四九九	九、四	三、五三、五八一	六、六

對英國及英本國以外の英領との取引は勿論特惠關稅で大きいけれども外國のうちでは日本が輸出の第一で之に次ぐのが佛・支・獨等いづれも總輸出額の四%又は五%なるに日本が遙にすぐれ英國外の英領が輸出七%七五よりも勝つてゐることは濠洲國政府の注意を要する點であつた、則ち日本は其生産物の需要地として本國について重要な市場だといふことである。

○日本品に對する一米棉業者の意見

ハイチ國で

は一九三三年以前米國との取引頗る好調であり、米國の綿布市場の筆頭であつたが同年より日本品に蚕食された、日本品は品質及耐久力に於て米國品に及ばないけれども頗る低廉で三割方も安價なる毛筋短き印棉を原料とする、故に日本の綿製品をハイチより如何程でも驅逐すればする程米國工場の仕事を増し米國工場による米棉消費をますますであらう、今日では

米國品一に對し、日本品十七で、一九三四年八月綿布著荷の割合は米國百四十九ヶに對し日本は二千五百五十六ヶであつた、次にコロンビヤでも一九三三年の年末から日本品の蠶食が始まり最近數月間米國との取引杜絶してしまつた。

一九二五年二九年の五年間に諸國への輸出平均価格は八千萬弗をこえ毎年二十萬依の棉花消費と三萬五千人の工場労働者雇傭に相當した、コロンビヤでは現在國內に紡績業が興つてゐるから狀況は複雑してゐるけれども米國はコロンビヤに對し同國紡績業を維持するために輸入歩合制を設くるがよいコロンビヤに對し過去五ヶ年(一九三二年迄)の輸出量を基礎とした歩合制としたい、然らざればコロンビヤはコロンビヤ國別輸入の五〇%以下のものをコロンビヤより購入する國より輸入品に對し一〇%の附加税賦課の法令を設けるやう薦めてほしい。

ハイチにも歩合制を設けるやう勸告し、同國の全輸出の五%を購入せざる國よりの輸入品に對して現行關稅の外に一〇%の附加税を課するやうに同國に勸告したい、米國はハイチ輸出の八%をうけ入れるけれども、日本は實際何等の購入品なし。

まづかうした請願を米國內でやつてゐる、もし中米、南米が合衆國の意向の通りに動くならば、折角出来た新市場も日本から離れざるを得まい、日本商品安價の前途には猶幾多の難關がある。

○西班牙の橄欖油

西國のオリウは同國經濟上の重要な一要素をなし其生産高は農産物總額の二割をしめ、この國貿易の消長もオリウ油の輸出にかゝる程であるから、西國民もこの栽培に重大な關心をもつ、然るに一九三三—三四年度のオリウ油の生産高は氣候不順で減收を示し製油にむけられた果實は前年の八九%にすぎなかつたが、其總收穫高千六百萬米キントル、製油高二百九十萬キントルで六十萬キントル減少した。

その生産地は凡百九十萬ヘクタールで、うち乾燥地百八十萬ヘクタール、灌漑地十萬ヘクタールに達し、東部アンダルシア、アラゴン、ヴァレンチン、カルタニヤ、及バレアル諸島、ナヴァラ、リオハ諸地方、カスチリヤ・ラ・ヌエヴァ、カスチリヤ・ラ・ヴィエハ、西部アンダルシア地方には灌漑地栽培を行ひ總面積の五%二をしめる、その大部分は葡萄又は穀物との混合栽培である、しかし西國の橄欖栽培面積は漸次増加の傾向があつて新規植付の五分一は灌漑地を利用してゐる、全面積の約八割五分は單一栽培法によるが漸次混合栽培にうつる傾向がある、今その生産高を地方別にすれば

西部アンダルシア	一四一、〇六〇、七五八、七五七
東部アンダルシア	九一、五八九、四五二
カスチリヤ・ラ・ヌエヴァ	七五、四六三、八四一
カルタニヤ及バレアル	六八、〇二七、八一六
レヴァンテ	五一、七六七、六二六

エストレマドウラ
アラゴン
以下略之

四七、四二八、七一一
二九、八一七、五一一

○加州の鱈漁業

北米カリフォルニア沿海の鱈漁業は北加州ではビツツアルク、モントレイ、南加州ではサンディエゴ及びサンピドロを中心として行はれ北加は八月一日から二月末迄、南加は十一月から三月二十日迄を漁期とし其期間以外は禁止されてゐる、加州の鱈は歐洲及北米メーン州即大西洋産とは種類を異にし、歐洲ではヘーリングといふのが最も多くスプラットス、ブリスリング、ビルチャードアンコヴェイス等を産するが加州ではビルチャードを主としサンペドロと桑港近海バンクバー附近で最も多くとられる、北方では大さ一呎に達し、南方に至るに従つて小い、一九二九年以後年々産額減少したので濫獲の結果だといつてゐたが本年度は非常の多獲で三十萬噸に達し従來の記録を突破するに至つた。とれたものは罐詰及びその原料たるサーデインオイルと肥料にするサーデインミルとに用ひられる。

サーデインオイルは主として石鹼の原料に供されたが、ウイタミンを含む量が多いから、いづれ食料に任用けられるであらう。サーデインミルは家畜の飼料としても有効である。

罐詰は一封度入、半封度入、七封度入大罐、五オンス入など數種類をつくり四分一封度入四角形はオリウ油漬であるけれども、其他はトマトソース漬である、トマトは加州には

優良品が産するからである、鹽水漬も出来る、トマトの方は一封度入オヴァール型の罐が最も多く五尾乃至七尾入を普通とする、立罐の一封度は鹽水漬である、これらの罐四十八箇入の函にして一年に百四十萬函を超える。

オリウ油の分は國內で消費し、其他は輸出されるもので米國輸出の鱈罐詰の九六%をしめる、其大部分は東洋及南洋方面に向けられる。

加州の鱈罐詰と日本品とを比較してみると、米人一般はオリウ油漬を第一としトマトソース漬は普及してゐない、オリウ油漬でも歐洲産を好むで加州産を好まない品質も劣るのである、肉のしまりフレイヴァー等がうまく行つてゐないこれは當地邦人漁業家が製造方法を了得してゐないところがある結果らしい、けれども日本内地で産する獲者ブランド程度のもよりは勝れてゐるといはれる。

加州在留の日本人はオリウ油よりも、却てトマスソース漬を好む者多きも、白人の然らざるは民族の體質及嗜好の相違に基くからであらう故に本邦斯業者は東洋及南洋方面へのトマトソース漬罐詰を以て販路を擴張すべく、オリウ油漬の對米輸出は一段の研究と改良が必要であらうといふ。

○シリヤ事情

一般にシリヤと稱せらるゝは土耳其、イラク、及びパレスタインの間に介在し佛國の委任統治の下にある地方で政治的には、リバン共和國、シリヤ共和國、アラウト國、ゼベル・ドルーツ國の四區である、人口は總數

三百五十萬を越ゆるが、其大部分はシリヤ共和國で約二百萬リバンは百萬、アラウイト、ゼベル・ドルーヅ合せて五十萬と算せらる、然し密度の最大なのはリバンで最も小なるはシリヤである、この兩國は名目上大統領及代議院を有し他の二つは夫れ／＼佛國人の知事を有してゐる。

リバン共和國の首府ベイルート(人口十萬)は同時に佛國委任統治政廳の所在地で有名な商港である、シリヤ共和國では首府ダマスクス(人口三十餘萬)とアレツポ(人口三十萬)がある、ホムス(六萬)ハマ(四萬)はこれにつぐ都邑で機業地であり、トリポリはリバン共和國北方の交通要路にあり、アラウイトの首府ラタツキヤは、シリヤの一海港アレキサンドレットと共に重なる町である、宗教は回教二百八十萬、キリスト教六十萬、猶太教其他十萬、大部分はシリヤ人でアラビヤ人アルメニヤ人等之につぐアラビヤ語が共通し、佛語を語る人もゐる、文化の中心はベイルート、アレツポ、ダマスの三市であるが埃及よりも一般に低級である、近隣に比し有力な産物がない、イラクの石油、埃及の棉などに比すべき何物もなく、往昔盛であつた養蠶業も今は國內の需要を充つことが出来な、そこでシリヤ人は商業を以て立つことになつた。

古來フェニキヤ商人を生ぜし地で、右の三市はオットマントルコ帝國時代市場として股盛を極めたが、帝國崩解後その商業的地位は大に低下した、しかし隣邦との通商關係は依然としてゐるし、その商業的手腕もすぐれてゐる、もしハイフ

ア、バグダット鐵道が完成したならば、ベイルートは大打撃をうけるかもしれないが現在ではベイルート、シリヤを通ずる通過貿易はイラク及波斯にとりて全く缺く事が出来な、この地に輸入さるゝ本邦品は佛英について優勢であり日本の近東航路就航船が、往航ベイルートに寄港するやうになつてから、本邦品の伸張地として注目すべき土地になつた。

即ち一九三三年日本品の輸入は二百八十萬磅である、一九三二年に佛英につき第三位であり、一九三三年には僅の差でトルコの下位第四位に下り、本年上半年期には佛英について第三位をしめ織維工業品が主位をしめてゐる、生地細布、晒綿布、友染、糸染等が多く賣りこまれ、絹や人絹はまだ十分に手が延びてゐない、雜貨類ではメリヤス製品第一位で、玩具電球、陶磁器、自動車用タイヤ、チューブ等も賣行がよい。

硝子製品、珞珈鐵器、水管、學用品(萬年ペン)、麥蘖製ゴザ、釘、燐寸、セルロイド製品からラヂオ、ブリキ、メガネ、皮革製品、紙、石鹼、香水等に至る迄輸入されてゐる。

かやうに本邦品の進出した原因は、アレキサンドリア商人の仲介及在本邦シリヤ商人の鋭敏なる商業的手腕であつて、最近シリヤ商人の渡日したものが十名餘にも上つた。

○膠東の柞蠶

山東省膠東地方の柞蠶絲及絹綢は重要産業の一で其發達は漢唐の時代に始まるといはれるも明ではない、しかし山東の繭綢といへばこの地方の繁榮の原因であつたが最近は一落千丈の感があつて大正九年に糸六、二四七擔、

網一五、六四二擔を輸出したが爾來段々と低下し氣息奄々となつてしまつた、元來膠東の糸網は古くから歐米で好評であり製糸、織網共に旺盛であつたが、今日では失業工人二十萬人にもなつた。

柞樹の野蠶は東三省と膠東の特産物であつて、支那では芝罘中心に野蠶が行はれ、これらは家蠶よりも五割乃至十割大きいから大繭ともいひ、柞繭ともいふ、其糸は色がわるいから灰絲といふ、しかしこれを繰つてから柞繭ソジュームナトリウム液に浸して色を白くしたものを藥水糸又は汽鍋糸と唱へる、手挽で太いのは大挽手ともいふ、膠東柞繭の一部は東山繭といひ一部は寧海繭ともいふ、安東方面から來るものは山東繭といふ、普通輸出品は四種に分ち二十碼單老寬(巾一碼長十八―二十碼)、五十碼長綢、三十碼粗老寬、二十碼粗二寬とする、最初の二つが薄手の上物で輸出に適する、其最盛期には芝罘に工廠四十二家もあつた、近傍に百餘家もあつて東三省からくる原料をこなし(七割)約三割は膠東からきた、一つの工廠には織機二十臺乃至五十臺にも上つたが今日では十臺そこそこを動かすに止まり工廠六家にへつてしまつた、そこで今日支那の綢は殆ど安東縣にうつつて日人指揮の下に織られるやうになつて膠東地方の製造も亦衰微することになつた。

山東省實業廳ではこの不景氣に驚いて大に對策を練り、膠東の植作育蠶を科學的に運ぶやうに努力しやうとしてゐる、

こゝにも中華民國凋落の姿がみられることは氣の毒である。

○チユニス問題

伊太利人は十九世紀の初より對岸のチユニスに移住して段々その人口を増加したので、當然伊太利領となると思つてゐたところ、一八七八年の伯林會議でピスマルクとソルスベリー卿の懇話に基き佛國は一八八一年急に攻めてチユニスを陥れて之を保護國としてしまつた、故に伊太利はふかく之を憾み、佛の仇である獨逸と結んで三國同盟となつたのであるから、チユニスは佛伊兩國の辛酷な係争地である。

伊太利からの移住は多くシシリ、サルヂニヤ人で一八八一年には一萬二千人に達し佛移民七百八人を遙に凌駕し、佛の保護國となつた後でも土木その他の事業に低廉な勞力を必要としたから伊太利労働者は非常に多數に入國し一九二六年の伊太利人チユニス在住者は八萬九千二百十六人となり、只今では十萬人を超過してゐる、そこでこれらの伊人はチユニス内で一郭を構へ容易に佛國總監府の命をきかない、チユニスの開發者だといふ信念で威張つてゐるから本國の國籍、主語風俗を用ひて決して佛國語を用ひない、そこで佛伊の間はますますつれるので、佛國はこれを同化したと考へるが、伊太利人は貧乏であり佛國からの移民は富裕で地主となつて伊人を小作人としてゐる位だから佛國は歸化法を出して兩親の一方がチユニスで生れ、その子もチユニスに生れたものはチユニス人たるべしといふことにし、鐵道従業員でも歸化し

ないものの賃金は低くしたり、伊太利語の小學校は新設を禁じたりしたが、今回佛伊協定で今後三十年間はテュニスで伊人を兩親として生れた者は伊國々籍を取り、其以後は歸化法によることとしたから三代目からはテュニス人となる、同時に十年を経ればテュニスで生れた伊人は選舉權を與へられること、學校も一九五五年まで現狀維持となつて兩國間の争の元が解消した、歸化する伊人は多くは貧民であり歸化を欲しない伊人は多くはブルジョアだといふことである。

○英國のセラニーズ社の人絹

アセテート人絹であるが其製品「ブランチ糸」はケバ／＼しい光澤がないので織物編物に適當する。羊毛代用品たる「セラスペン」は羊毛に勝つて肌に直接にさられるし電氣及熱に對する不良導體であるから他の何れの織物にまさり人々が體裁のわるい厚目物をすてて軽い衣服を必要とするにつれて、ます／＼需用がふえる傾向がある、つぎに「セラフィル」といふ羊毛類似の製品はシャツペ・シルクの代用品として、羊毛では不可能な低度のデニール又は細番手につくり上げられる、猶又「強力糸」ともいふべき良糸ができて綿やヴィスコース同様に染色がきく、さうして天然絹糸よりも遙に強く、少くとも五割方強い糸として仕上げられる、恐らくこの糸は天然絹糸の位置を奪ひうるもの

であらう、天然絹糸よりも細くて強いものだから而して價が安いといふのであるから、天然絹糸をつくるものはこの傾向を注目しなくてはならぬ。

○瑞西の牛乳

ヴィクトルニューゴイは嘗てスイス人は乳をしぼり、平和に生活する國人也とのべた程にスイスの主要産業の一に乳産業がある、乳牛は凡十萬頭であり乳山羊は十六萬頭と稱されてゐた。

當國産チーズはエンメンタール。グルイエル。シュプリンツなどいふ種が最も著名で、其取引中心地はベルン、ランゲンタール、アルクドルフ、アル、ルツェルン、チュリッヒ、ザンガル等の都會で生産量四一、四〇〇噸に達し、山嶽地方のジャレー(山小屋)で小規模につくるものは五、〇五〇噸、主として地方向であり、捏粉風のチーズは下等品で四、七〇〇噸其他脂肪ぬきの乳からつくるものが四、二五〇噸を産した、バターは昔は乳が不足したのでバターの輸入もみたが現在獎勵の結果、バターのストックが出来だした、昨年度生産量は二千五百五十萬噸に上つた、コンデンスミルク及粉ミルクは千二百萬噸を産した、これは主として輸出品であるが近年不況で倒産者が多く漸く更生の域に入らんとしてゐるといふ。